

「旧吹屋小学校校舎」平成～令和の大修理！

— 令和4年4月一般公開への道のり ① —

保存修理のため校舎解体へ

平成24(2012)年3月、当時国内で現役最古の木造校舎を使用していた吹屋小学校(成羽町吹屋)が閉校しました。

明治33(1900)年に建てられた東西校舎と明治42(1909)年に完成した本館の建物は長い間大きく改築されることがなく、文化財としての価値が認められて県指定重要文化財に指定されていましたが、一方で劣化が進み、良好な状態で将来へ継承するにはどのような保存修理を行うかが最大の課題でした。

すでに地盤の不同沈下で校舎は傾き、建物の強度不足も分かっていたので、いったん校舎を解体してから地盤補強と建物の構造補強を行うことが必要で、平成27(2015)年10月から保存修理工事に着手しました。解体は、足場と素屋根を設けて慎重に進め、使用木材や石材などは元に戻せるよう位置などを記録し、また、瓦とともに一点一点傷み具合なども調査する地道な作業の連続でした。

建物と基礎の解体が終わると、いよいよ次は地盤の補強へと移ることになります。(4月の一般公開までシリーズでお伝えします)



瓦の取り外し



解体して見えてきた本館の基礎

☎社会教育課 ☎ 21-1516



「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋— ⑮

日本遺産に認定された「『ジャパンレッド』発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—」のストーリーを構成する文化財を紹介します。

「鉋夫長屋跡」未指定記念物(建造物)

江戸時代の吉岡銅山よしおかどうざんは、幕府の管理下にあり、地元の大塚家や江戸・大坂の商人たちが経営を請け負いました。「吉岡銅山絵図」(津山郷土博物館所蔵/広報たかはし9月号掲載)には、「吉岡銅山役所」(旧吹屋小学校地)の東側に「吹所ふきしょ」(製錬所)と「吹捨カラミふきすて」(製錬カスの捨場)が描かれています。また、銅山の労働に従事した鉋夫の居住区域は、「稼人居所かせぎにんきょしょ」として吹屋の町並み周辺に記載されています。吹所へ続く白石地区の坂道の両側には鉋夫の長屋が建っていたことをしのばせる階段状の石積みが残っています。大坂の泉屋いづみや(後の住友)が経営していた貞享2(1685)年の銅山労働者数は635人にのぼり、地域の基幹産業であったことがわかります。



鉋夫長屋跡

日本遺産「ジャパンレッド発祥の地」講演会を開催します

日時 12月5日(日)午後1時30分～4時(開場午後1時)

場所 高梁総合文化会館大ホール

内容 ①動画放映 ②吉岡銅山や吹屋に関わった人物などの紹介
③講演「日本遺産と観光地づくり」(山田拓さん) ④物販コーナー

☎高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎ 21-0257